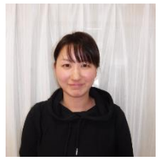
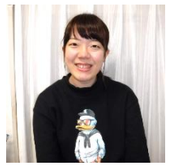
向山保育園

坂本　彩夏　0歳児クラス
白梅学園大学出身
＜2か月働いてみて＞
有期職員で1年間働いていた時は、「かわいい」と思って見ていた子が、常勤職員になって、より責任をもって見る事にドキドキしています。分からないことが多いので、職員の皆さんに話を聞き、本を読んで勉強して、毎日たのしく保育しています。



船津　あゆ子　0歳児クラス
白梅短期大学出身
＜2か月働いてみて＞
向山保育園に母になり帰ってきました。初の0歳児クラスですが、保育も子育てもみんなの力を借りながら頑張っています。



津雲　梨萌　1歳児クラス
明星大学出身
＜2か月働いてみて＞
初めての1歳児クラスで、子ども達からのためし等に、悩むこともありました。4月からの成長をとても楽しく見ています。生活面も遊びの面もいろいろ考えないとですが、まだ出来ていないので、もっとがんばっていきたいです。

山縣　会　給食担当
東京栄養食料専門学校出身
＜2か月働いてみて＞
他園で働いていましたが、園によってやり方や衛生管理も違う中で、また新たな気持ちで頑張っています。給食にもクラス担当があるので子ども達との距離も近く楽しくやっています！

奮闘記～母になって再出発～

船津あゆ子

私は2年前に向山保育園を退職しました。その時は、結婚し旦那の住んでいる埼玉県久喜市に住むことになり、通勤に時間がかかることが理由でした。退職後、他の保育園で保育士と働き、妊娠を期にその職場を退職し、子育てに専念していました。家族で話をして4月から働くことを決め、今後私の中で保育士をするなら向山保育園でやりたいという思いがありました。その気持ちを家族に相談した所、子どもが小さいのにそんなに遠いところにいかなくてもいいのではないか、かわいそうと大反対でした。それでもやりたいと伝え、最終的に義父から「孫の面倒は僕がみるから」と言ってもらい入職試験を経て、向山保育園に母となり再就職できました。

クラスは0歳児クラスを受け持ち、時短職員として、クラスに色々と配慮をしてもらいました。母になりわが子と同い年の子を見ると、また違った視点に立って見られるようになりました。娘も4月から保育園に入園し、5か月と小さかったためすぐに慣れ、笑顔も見られるようになりました。しかし、生活の変化に娘も疲れが出て4月3週目から熱を出し体調を崩し気管支炎になりました。その後体調は良くなったり、悪くなったりを繰り返し5月中旬に高熱を出し、気管支炎が悪化したため、入院が決定しました。病院では24時間の付き添いが必要とのことで、家族で会議をし、日中は祖父母がみて、夜は私が看病につくことになりました。入院初日は元気がなく、夜も眠れず、ぐずぐずして苦しそうにしている娘を見て、私も暗い気持ちになってしまいました。日中は祖父母に診てもらい、私は出勤すると、事務所で「娘さん大丈夫？船津さんが倒れないように気を付けてね」と声を掛けてもらい、また0歳児クラスの子どもたちの元気さに自分が暗い気持ちのままではよくないと元気をもらいました。働くことで気分転換でき、気持ちにゆとりを持って娘の看病が出来ました。娘の体調も良くなり、5日で退院できました。

保育士としての経験はあるが、まだ母として新米です。これから病気だけでなく色々なことがあると思いますが、助けてもらいながら、自分の出せるところは力を発揮していきたいと思った再出発の新年度でした。

新入職員奮闘記

学童クラブ

【2か月間学童クラブで働いてみて】永山学童クラブ　金子　知佳

永山学童クラブで子どもたちの育成に携わるようになって約2ヶ月が経ちました。毎日があっという間に過ぎていき、日々学びと気づきのある生活を送っています。“自分の言葉がけや育成はあれで良かったのだろうか”と悩む事も多いですが、施設長をはじめとする周りにいる先輩職員の方々や子ども達に助けてもらいながら楽しく支援員として奮闘しています。

これからも子ども達の持つ力を信じ、その発達をしっかりと見て、子どもたちの主体性を大切に成長を見守っていきたいと思います。また、子どもたちにとっていい学び・成長に繋がるなと思ったことを少しだけ大人として引っ張りながら、子どもたちと一緒に一歩先へ、もう一歩先へと進んで行けたらいいなと思っています。その為に日頃から様々な事に目を向け、視野を広げるなど自分自身も主体的に学んでいく事を大切にして頑張っていきたいと思います。

入職から約2ヶ月、4月の慌ただしさと5月の10連休を経ていま、やっと職員として働き始めたという自覚を持てたように思います。子ども達と過ごす日々は楽しく充実していて、あっという間のような、たくさんの時間が過ぎたような、不思議な気持ちです。新入職から少しずつ緊張がほぐれてきて、先輩たちの背中を見ながら、自分の考えを持って、それを伝える事ができるようになりました。同じように新入所の子ども達も、だんだんと素の姿を見せてくれます。

きっとこれから色んなことがあると思うのですが、そのときには、子どもにとって安心して話ができる大人でありたいです。そのためにいまは、子ども達と遊びを通じて信頼関係を築くことを目指しています。

永山小学童クラブ　平林　悠

「しもちゃーん！今日、初めての5時間授業だった！」、帰ってくるなり満面の笑みで話してくれるA君。その3分後…「A君が泣いているよ！」。その声に振り向くと、あら、目に涙をためているA君。

涙ながらに、お友だちに叩かれてしまった事を話してくれました。少ししてから落ち着くと、今度はレゴに夢中になり、満開の笑顔を咲かせているA君。

－全力で感情を出せるこの時期・この世界は、なんて魅力的でしょう！！－

私は以前、別の法人で学童クラブに勤めていました。その後、子どもとの現場を離れ、相談職に就きましたが、子どもたちが感情を力一杯に出し成長し合っていく姿に魅せられ、この世界に戻ってまいりました。

子どもたちは、日々様々な表情を見せてくれています。戸惑いだらけではありますが、周りの職員に助けていただきながら、楽しい毎日を送っております。これからも子どもたちと一緒に、迷い笑いながら、自身をも感受性を豊かにして、この学童クラブでの毎日を慈しみ励んでいきたく思います♪

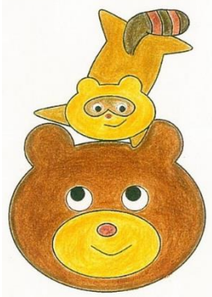
永山小学童クラブ　下田　はるか

砧保育園

砧保育園での１ヶ月は本当にあっという間でした。わたしは今、3、4、5 歳児の異年齢クラスの担任をしています。就職してから生活の流れを知り、子どもたちのことを知り、1 ヶ月経った今でもとにかく毎日が学びの連続です。覚えることがとにかく沢山あり、まだまだ覚えきれていない中で、子どもたちにはとにかく助けられています。特に、異年齢保育という事で 3 歳の対応に苦戦していると、5 歳児の子が「いま〇〇な気分なのかもね」と気持ちを察してくれて、その存在はとても大きいです。

大人だけでやろうとせず時には子どもの力を借りて、子ども同士の関係も大切にして日々わたし自身も成長していける保育者でありたいなと思います。

白梅学園大学出身　大山　ひとみ（中央）



入職して2か月が経ち、人の温もりを大いに感じています。

1歳児担当になり、日々の子どもたちとの肌のふれあいと、多くの先輩方の働く姿、朝夕にお会いする保護者の方々の子どもを見つめる姿など、人々との出会いをかみしめている所です。人との繋がりを感じられるこの職場で、面白い事をたくさん見つけ、学び続けていきたいと思っています。

とはいえ、現状は毎日が慌ただしく過ぎていきます。明日は 7 時15分出勤だから寝坊しないようにと思いながら、夕方うたた寝をして、起きたらなんと7時２０分！！急いで園に連絡しなければと、電話をすると‥まだ夜でした。よかった…。

子どもたちが日々変化していく姿や、様々な笑顔を間近で　感じられる事が嬉しいこの頃です。
どうぞ宜しくお願いいたします。

東京国際福祉専門学校出身　和田　康子（左）

４月から働き始め、もうすぐ２カ月。

元気に遊ぶ姿だけではなく、時には、力いっぱい泣いている子どもたち。どんな姿でも子どもたちと過ごす時間はかけがえのないものだなぁと感じています。

少しずつですが保健の先生だと覚えてもらってきており、部屋を回っていると「先生～、もうココ治ったよ」「先生～、ケガしちゃって痛いの…」など子どもたちの方から声が掛り、そんな瞬間がとても嬉しい毎日です。子どもたちの健やかな成長と発達、何よりも保育園で過ごす時間が楽しいと思えるように、ケガや体調不良の時は少しでも痛みや苦痛が和らぎ、安心して過ごせる時間となるよう、これからも日々奮闘していきたいと思います。

東邦大学医療短期大学出身
鈴木　あかね（右）

上北沢こぐま保育園

明星大学出身　徳田有紀

４月当初は、１日１日をこなすだけで精一杯でしたが１ヶ月たち、ようやく園での生活にも慣れてきました。初めは、顔を見るだけで泣かれる等、子どもたちとの関わりの中で心折れそうになることもありました。しかし１ヶ月を通して、その子が楽しく遊んでいる時に一緒になって遊んでみたり、着脱や食事は言葉がけを意識して行う等、常に関わりを持ち、この人は一緒にいても安心できると思ってもらえるよう行動したことで今では、子ども達から私のところへ来て、楽しく一緒に遊ぶことができるようになりました。

これは、こうした関わりだけでなく子ども自身の適応能力や成長によるものでもあり喜びも感じました。また、朝、部屋に行くと、徳田せんせーい！と走ってきてくれる子や午睡の際にとんとんしてーと私を必要としてくれる子、大丈夫？と私を助けてくれる子等、多くの子どもたちと関係ができ始めています。子どもたちの成長全てが貴重な経験であり、わたしの活力となっていると強く感じています。

その中でも特に、１人の“すくすくの子”との関わりが強く心にあります。今もまだありますが、初めは試し行動を多く感じました。私が何か話をしてもやだやだーと聞く耳を持とうとしてくれませんでしたが、食事や着脱等の生活で多くふれあい、遊びでは楽しい気持ちを共有して、生活を共にしていきました。その子の気持ちを理解しようと真っ直ぐにぶつかることで信頼関係が築かれていき、今では徳田せんせーい！と走って私の元へ駆け寄ってきて、私の話を聞こうとしてくれる姿勢が見られるようになりました。まだ、関係は出来始めたばかりなので、より一層子どもたちを理解し、よりよい保育を行うために周りの先生方の保育を学ばせて頂き、自分の保育にも活かしていきたいです。まだまだ、未熟で周りの方々や子どもたちに助けてもらってばかりですが、子どもたちのために今何ができるのか常に考えながら、保育に臨んで行きたいと思っております。

こぐま保育園　新入職員

『こぐま保育園に入職して』

入職して２ヵ月弱、未だに気持ちに余裕がないのですが、周りの先輩方に助けていただき大変なこともあるけど楽しい毎日を過ごしています。様々なエピソードがありますが、特に印象に残っているのは新入園のＴくん（１歳）のことです。入園して次の日から母子登園があったＴくん、私も慣れていないのでとても不安でした。予想はしていましたが大泣きのＴくん、お母さんも不安そうな顔で自分は“どうしよう”と気持ちだけが焦っていました。それを救ってくれたのは子どもたちでした。「大丈夫だよ」「いないいないばあ」とＴくんを安心させようと集まってきてくれたのです。Ｔくんも徐々に笑顔が増え、お母さんも安心した様子でした。改めて異年齢ってすごいなと感動しました。子どもたちに背中を押され少しずつＴくんと関係をつくり、今では私を見つけるとニコッと駆け寄ってくれます。まだまだ失敗ばかりですが先輩方、父母、子どもたちからたくさん学んでいきたいです。

うみ
白梅学園短期大学出身
岡田　清楓

『保育者として働いてのエピソード』

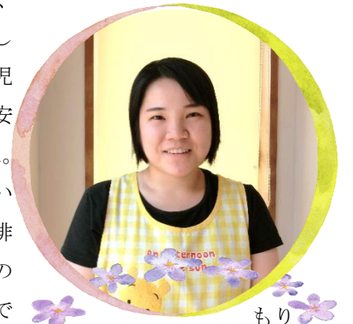
私が保育者となって約２カ月間で、現場に立って学んだ保育者に求められる資質を痛感したり、関わりが上手くいかず頭を抱えたりすることもありました。怒涛のように過ぎていく毎日の中で、保育に必要な「待つこと」の大切さを強く感じました。時と場合により待っていられないこともありますが、時間内に動けるようにしなきゃ、と大人が焦って言葉で急かすのではなく、子ども自身の気持ちの切り替えを待つことが必要だと気が付くと、私も肩に力が入りすぎることがなくなったように感じます。焦った感情になってしまう時ほど、良い意味で心に余裕をもって保育に取り組んでいくことが大切であると感じました。保育者が子どもにとって居心地の良い、安心できる存在となれるためにも、保育者自身の心持ちが重要となってくると考え、常に念頭に置いて保育に臨みたいと感じています。沢山の学びの中、子どもと過ごす日々が本当に楽しくて、毎日幸せな気持ちでいっぱいです！

そら
白梅学園大学出身
濵田　佑里恵

『仕事を始めて』

グループ担任を持つ前日、子どもたちが私を担任として受け入れてくれるのか、子どもの気持ちを受け止め、その気持ちに応じた保育ができるのか不安でいました。しかし、お部屋に入ると先生方が温かく迎え入れて下さって、グループの幼児たちが担任をすることを喜んでくれる姿を見せてくれたので、非常に嬉しく、不安も消えていきました。そのため、気持ち良く保育をスタートすることができました。中でも大変嬉しかったことは、全く心も開かず、一緒に何かをすることを拒んでいた２歳児の女の子が私を「田邊先生」と呼んでくれたことです。最初は、着脱や排泄などの援助を私がすると嫌がり、心を開く様子が見られなかったため、女の子の気持ちにじっくりと寄り添い、時間をかけて関わっていきました。その結果、今では「田邊先生と一緒にやりたい」など言ってくれるようになりました。

この嬉しさと経験を力に今後も精一杯取り組んでいきたいです。



もり
明星大学出身
田邊　遥香

『こぐま保育園に入職して』

はじめての厨房で分からないことがたくさんありました。乳児と幼児で食材の切り方や大きさ、長さを変えることや個数計算・調整をすることが大変だと感じました。また、今までの自分がやっていた方法より効率の良い切り方や調理法を教えていただいているので、実践できるようにしていきたいです。限られた時間の中で下処理、調理、盛り付け、片付けを終わらせられることを目標にしています。給食だけではなく、軽食の準備や調理も時間に余裕を持っておこない、こどもたちが食べている様子を少しでも見に行けるようにしたいです。そこで、こどもたちの好き嫌いなどの嗜好や一口のサイズの違いなどを実際に見て感じられるようにしたいです。

給食
函館短期大学出身
工藤　利空

『乳児保育をして感じたこと』

４月になり、すやすやは全員が新入園児になりました。０歳の子どもたちはこんなにかわいいのかと思うと同時にこんなに小さいのかと少し戸惑いを感じました。私は実習や大学の講義、ボランティアでも０歳児とあまり接したことがなかったので、分からないことばかりで、すべての事が初体験という感じで日々を過ごしているところです（おむつ替え、着替え、離乳食、寝かしつけ等々…）。自分が何をしたらいいのか、分からないこと、できないことがたくさんあり、不安なこともあります。しかし、その都度、先輩の先生方が助けてくださったり、アドバイスをしていただいたりすることで日々子どもたちとのかかわり方を学んでいます。そのような中で、子どもたちが笑顔だったり、心が通じ合ったり、成長を感じたりするときは本当にうれしくなります。

にじ
岡山県立大学出身
山本　奏恵

『働いてみて感じたこと』

１ヵ月と少しこぐま保育園で働いてみて、まずは想像以上に色々なことが大変だなと感じました。１から５歳の異年齢集団を保育することも、毎日の子どもとの関係性づくりも、父母との関係づくりも全てが初めてで目まぐるしく月日が経っていきました。その中で「今日の関わり方は正しかったのか」「うまく子どもたちをまとめられなかったな」と反省する毎日でした。そんな大変な毎日の中、先輩方のあたたかい助言をもらいながら過ごしてきました。さらに、徐々に子どもたちが私を担任として受け入れてくれて、甘えに来てくれたり、ほんの少し成長したり、そういった姿を見ることで癒されもっと頑張ろうと思えています。まだまだ未熟でうまくいかないことばかりですが精一杯頑張っていきたいです。

やま
和泉短期大学出身
山田　睦美

『異年齢保育をしてみて感じたこと』

異年齢保育というものを実際に経験してみて、たくさんの良さを知ることができました。大きい子は小さい子にも無理がないよう怪我をしないように手を引いてゆっくり歩いてあげていたり、靴や服、帽子の着脱を手伝ってあげていたり、「かわいいね～」と言いながら優しく頭や頬を撫でていたりしています。そんなやり取りを見ていると、とてもほっこりします。小さい子たちもいろんなことができるお姉さんお兄さんに囲まれて、かっこいい姿を見ていることによって真似をして、たくさんのことができるようになり、言葉も増えてきたりしています。異年齢保育は、大きい子は小さい子をお世話してかわいがり、そんな自分に自信を持ち、小さい子は大きい子の姿を見て憧れ真似をして成長する。とても素敵で感動しました。

かぜ
日本福祉大学出身
伊豫田　彩